

ラテラン教会の献堂（A 年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ 2：13-22

イエスはエルサレムの神殿へ上って行かれた。境内で売っている者たちと両替をしている者たちをご覧になった。イエスはその台を倒し、彼らに言われた：「私の父の家を商売の家としてはならない。この神殿を壊してみよ。三日で立て直してみせる。」イエスの言われる神殿とは、ご自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活された時、弟子たちは、イエスが言われたのを思い出し、信じた。

（二）カテキズムの響き：

カトリック教会のカテキズムの番号、主に #583-586、他に 797-798 ; YOUCAT #181-191)

イエスは旧約の預言者たちと同様に、エルサレムの神殿に深い敬意を表されました。毎年、少なくとも過ぎ越し際には神殿にもうで、イエスは神に出会う特別な場所として神殿を訪れました。神殿はイエスにとっては御父の住まい、祈りの家ですので、境内が取引の場となっていることに憤られました。神殿から商人たちを追い出されたのは、御父への熱烈な愛によるものです。御父の家を商売の家としてはならないと強調されました。復活の後、使徒たちは神殿を敬います。受難を前にしたイエスは、この見事な神殿が跡形もなく崩壊することを予告されましたが、まったく、イエスが神殿に反感を抱くのではなく、ご自分を神殿と同一視し、ご自分が神の決定的な住まいであることを人々の間で示されました。したがって、イエスは、それが自分の過ぎ越しを通して開かれる終わりの時のしるしだと告げられたのです。イエスの肉体を殺害することは、救いの歴史が新しい時代に入ることを示す神殿の破壊を予告することになるのです。

そのために、神の民は山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝することではなく、ペトロを礎として教会が定められ、キリストと結ばれて、キリストの霊と真理による礼拝することです。即ち、聖霊は、教会を生ける神の神殿として、キリストの体の異なるそれぞれの部分にあって命を与え救いをもたらし、あらゆる働きの原理です。特に、聖霊は、私たちの内に、多様な特別の恵みとしてのカリスマによって、キリストの体全体という神の真の神殿を、愛のうちに築きあげます。

（三）カテキズムの学び：

『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号 #244-246、538

旧約の神の神殿及び現代の聖堂ということ

最後の祈り：教会の献堂の叙唱

聖なる父、全能永遠の神、いつも、あなたをたたえ、心から感謝をささげます。この祈りの家はあなたの住まい、ここに集まる私たちの上に、あなたは尽きることのない恵みを注ぎ、聖霊の神殿となさいます。また、あなたはキリストの花嫁である教会を慈しみ深く育て、喜びに満ちた母として天の栄光に導かれます。あなたを称えるすべての天使、聖人とともに、私たちも賛美の歌を捧げます。